

丸刈に見る日本的な保守性

小川 賢 治

近年の「新保守主義」と異なる伝統的な保守主義について検討を加えるために、「丸刈」という習慣を題材に取り上げる。丸刈は、仏教の僧侶における剃髪を別にすれば、軍隊・監獄、規律を重視する学校、高校・大学の一部の運動部、右翼主義者などを連想させるように、何らかの意味で保守的なものと係わりをもっていると考えられる。それゆえ、このような丸刈を手がかりにすることによって、日本的な保守主義の問題を考えることができるものと思われる。とは言え、むしろ、丸刈という髪形そのものが保守的である、というような命題は成立しないし、また、個人的な理由から丸刈にする者の思想を問うこともできない。ここでは、丸刈が何らかの意味で集団的な規範としての性格を持つ場合について考える。

丸刈と保守性の関連については次のような点が指摘できよう。

日本において「丸刈」は、軍隊・監獄などと結びついて連想されるように、「保守的」なものと係わりを持っている。ここで言う「保守的」は極めて広い意味を含んでおり、次のような幾つかの意味を区別しよう。

1、統制あるいは管理（としての保守性）。軍隊・監獄・一部の学校など、全体の統制を重視する集団において丸刈は特徴的に見られる。監獄や中学校においては、成員の管理・秩序の維持のために丸刈が好都合であると明言されている。例えば、刑務所内

の受刑者には丸刈が強制されるが、その根拠として以下のものが挙げられている。第一、多数人を一定の場所に隔離する場合、長髪はとかく不潔に陥りがちであり、衛生上の見地から丸刈が必要である。第二、外観上の斉一性を保つ必要がある。このことは二つの意味を持っている。ア、受刑者の外観を特定の形に統一することは、刑務所内の秩序の維持ないし逃走の防止に有効である。イ、あらゆる階層の出身者からなる受刑者を刑務所内においては、その外観を含めてすべて一律に扱うことが、刑の執行、受刑者の矯正の目的から重要である。第三、頭髪を剃削する方が、長髪を許し調髪する場合よりも、施設、器具等の点で財政上の負担が軽く、受刑者の管理もいっそう容易である。

ここに見られるように丸刈は、受刑者の管理や秩序の維持に有効であると考えられている。

また、一部の中学校においても丸刈が強制されているが、その際の根拠についても検討しよう。そのような根拠として中学校側が挙げるのは以下のものである。一、非行化の早期発見と防止に有効である。二、教師、父兄、地域の人に中学生らしい印象を与える。三、質実剛健の気風を培うのに効果的である。四、衛生面で清潔である。五、スポーツに都合がよい。

ここでも、非行化の防止・中学生らしさの強調など広義の管理に丸刈が適合していると見られている。

2、質実剛健という価値観。軍隊、高校・大学の一部の運動部、右翼主義者などにおける丸刈にはこのような価値観との結びつきの存在することが推測しうる。

日本の軍隊においては、明治二七、八年の日清戦争の頃までは頭髪は決して丸刈にすべしとは規定されていなかったが、この時

期以降バリーカンの利用による能率の向上も手伝って、出征兵士を中心に丸刈が一つのスタイルとして定着していった。これは「軍人の勇ましさを好む人心」に発する軍人風の習慣であり、何事も勇ましけれ活発なれと思う人の心から男の頭髪は五分剪、三分剪、一分剪から、甚しきは一厘剪というもので出てきた。この間の事情は、ある文献においては次のように伝えられている。「戦地に赴くについては、規則に拘らずきわめて短く刈込んで出陣し、凱旋後はなほ短く刈りたるより戦争後のこととて一も二もなく軍人の勇ましきを好む人心、丁度彼の刈込機械にて五分刈りの流行し初めた処へ此の軍人風がぶつかりて、市中一般に短刈が流行し、終には只短くさえあれば何でも良いという風に」なった。

現代の丸刈の起源の一つはこの時期の軍人風の精神にあると言えよう。

また、高校や大学の一部の運動部に見られる丸刈は、単にスポーツをするのに便利あるいは清潔である、という理由のみに基づくのではなく、何らかの価値観を表現していると考えられる。これは、上に見た中学校における丸刈強制の根拠として「質実剛健の氣風を培うのに効果的である」点が挙げられていたことと同根である。

また、右翼主義者は、左翼主義者と対比した場合、丸刈との結びつきが強いことが指摘できるが、彼らにおいては、監獄や一部の学校に比べて、団体としての統制をとるために丸刈にする必要

性は小さい。それ故、丸刈は、団体の統制のためというよりは、特定の思想を象徴するためのものであるように思われる。

3、性差別待遇。上記2の価値観ともかわって、男女差をとさらに強調する思考様式と丸刈は結びついている。(性差別は、社会学的あるいは社会心理学的な研究において、保守主義的態度の一因子であることが確認されている。) 中学校や刑務所において、丸刈が課されるのが男子のみであることについては、一般に何ら疑問の余地のないものとして受容されているが、そこには、性による異なった待遇の自明視という保守的な思考様式が現れている。

4、贖罪意識。これは、頭を丸めて罪を贖うという観念である。古い時代には剃髪は重罪人に課された刑罰の一つであって、最大の恥辱とされた。そのような意味をもつ剃髪を当時の出家たちは、俗世間から離脱し、虚飾と煩惱を断ち切るためのものとして自らに課した。丸刈は現代においてもそのような恥辱としての意味を持ち、罪を贖うためのものという性格を失っていないと考えられる。

このことは刑務所における丸刈の強制にも妥当している。そこでの丸刈の強制が「頭を丸めてお詫びをする」という贖罪の意識から行われているとすれば、刑罰の近代化という点で問題があるという指摘がなされている。